経済産業省

JISC 日本産業標準調査会

第８１回 ISO/TMB（技術管理評議会）結果報告

経済産業省　国際標準課

基準認証専門官

猿橋　淳子

令和３年７月３０日

今回のTMBに関して

- 今回のTMBも、ISO会長会議の指示に従い、WEBで開催されました。
- 対面会議開始の時期は決定されていないため、今後もISOからの連絡に注意いただければ幸いです。＜現時点で９月末まで対面禁止＞
- しかしながら、ハイブリッド会議の申請を受け付けることが会長委員会で決定しております。
- 引き続き安心・安全な状態での規格開発にご対応いただけるようお願い申し上げます。
- なお、遠隔会議が推奨されておりますが、時差の問題に関してはなくなることがありません。もし、何か困難な事象等が発生しましたら、ご連絡いただければ幸いです。

本資料の決議は簡易版ですので、正式なものは英語版でご確認ください。

TMBの任務と議長・メンバー・事務局の紹介（１）

１．任務

●ISO規格作成に関する管理事務的事項

✓TC/SC/PCの設置・廃止、議長任命、幹事国割当、ISO/IEC専門業務指針の改訂等

●ISO規格作成に関する戦略的事項

✓規格開発の効率化・迅速化、TC/SC戦略ビジネスプランの審議・承認、TC/SC活動の調整・モニタリング等

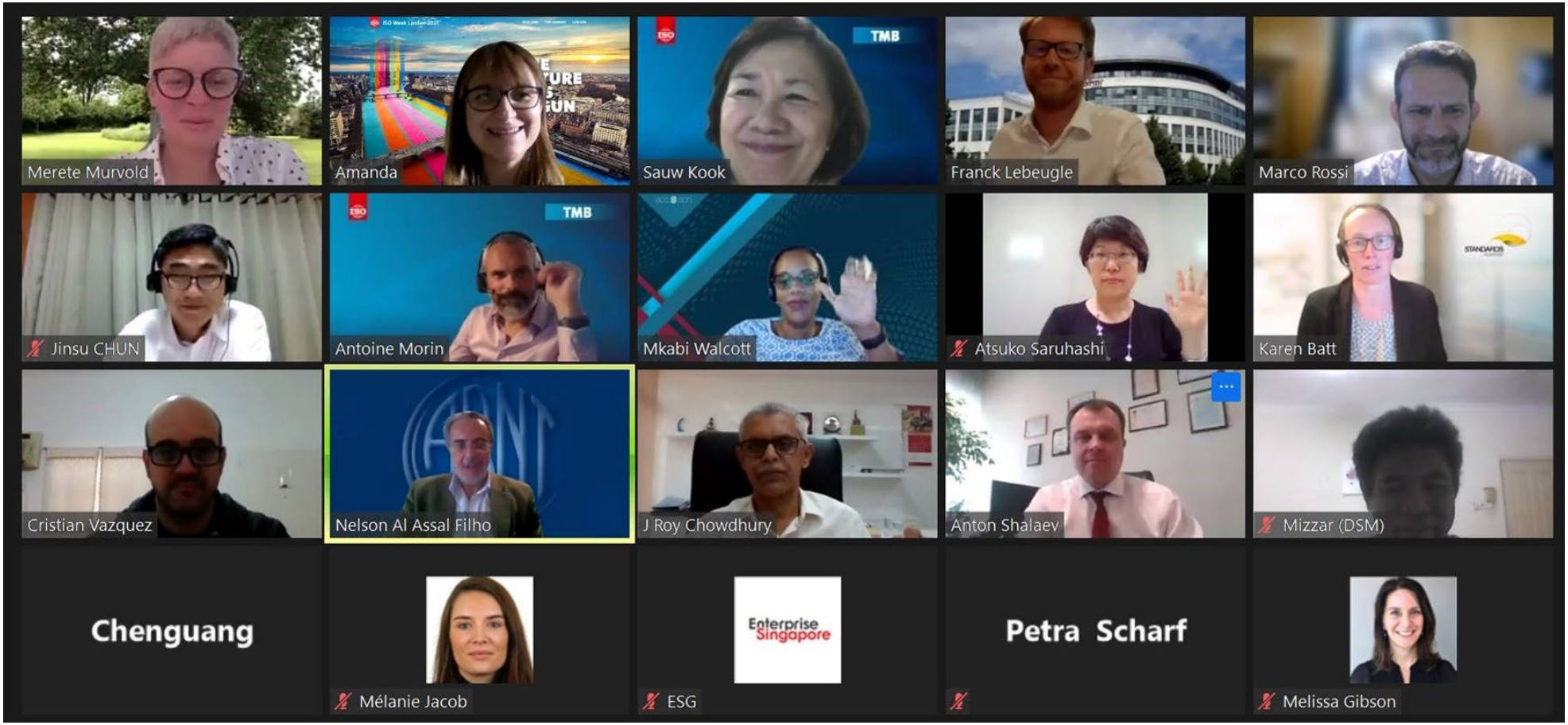
TMBの任務と議長・メンバー・事務局の紹介（２）

２．メンバー（出席者）

- TMB議長: Ms. Sauw Kook Choy （シンガポール）
- TMBメンバー（15名）：Mr. Steven Cornish (米), Ms. Amanda Richardson (英), Ms. Petra Scharf (独), Mr Franck Lebeugle (仏), Ms. Atsuko Saruhashi (日), Ms. Karen Batt (豪), Mr. Anton Shalaev (露), Mr. Jin Su Chun (韓), Ms. Merete Holmen Murvold (ノルウェー), Mr. Nelson Al Assal Filho (伯), Dr. Mkabi Walcott （カナダ), Mr Roy Chowdhury (印), Mr Cristian Vazquez (亜), Mr Hussalmizzar Hussain (馬), Mr Chenguang Guo (中)
- ISO中央事務局：Mr Marco Rossi (新部門長), Mr. Antoine Morin TMB事務局長代理、ほか３名
- オブザーバー： Mr Gilles Thonet SMB事務局長（一部日程）、CS担当

TMBメンバー　（3）

- 但し、写真撮ると言っていなかったので、微妙な写真・・・



【議題7.2.1】COVID-19　例外的措置の期限終了

＜背　景＞

- COVID-19の影響でISO全会議がバーチャルで開催されることになって以降の、規格開発への影響をCSが調査した結果を踏まえ、規格開発を休止ステータス（On hold status）に登録できるようにしたもの。
- 新規案件数が減少傾向であるが、ハイブリッド会議の申請を受け付けることにしたことも踏まえ、休止ステータスの措置を終了する。

＜審議内容＞

- 休止ステータスを申請期間の終了。

＜結　果＞　決議番号：54/2021

COVID-19　例外的措置の申請受付終了

- 例外的措置の申請数が低く、新しい常態での規格開発を受け入れるため
- TMB/SMBでハイブリッド会議等のガイダンス作成を行っていることから
- TMB決議19/2021の例外的措置の受付期間を延長しない。

【議題外】ハイブリッド会合開催承認条件　＜参考＞

＜背　景＞

- 会長委員会報告に、８月以降のハイブリッド会議の条件付き承認の記載があるが、条件及びプロセスの明示がない。最低でも１か月前には明示を要するのではないかとの懸念が示された。

＜現在の状況＞

- 数件のハイブリット会議の承認依頼が、ISOに到達中。
- 会合承認条件は、事務局長とTMB議長により作成され、TMBがコメントして完成予定。

- なお、ハイブリッド・リモート会議のガイダンス文書をSMB/TMBの合同TFで作成中であり、これはSMB/TMBの承認がいるため、完成は１０月。

【議題5.2.1】社会的責任のTC設置検討のTF

＜背　景＞

2020年６月15日MB投票が締切られたAFNOR（仏）からの社会的責任のTC設立提案。６８カ国投票中、３８カ国が賛成、１４カ国が反対、棄権１６。

過去の経緯もあることから事務局の判断でTMB投票を行わずTMBで議論。その後行われる定期見直し投票の結果と、国際機関等からのコメントを踏まえ、TFがTC設立に関して検討し、2021年６月のTMB投票に報告することになった。

＜審議内容＞

- MBのみならず、様々な組織からのコメント、定期見直しの結果（確認）とコメントなどを踏まえて、TFで議論。
- 今回の議論でリスクが判明しており、それらを解決した上で将来の定期見直しの後に検討すべき。すぐにでもTFを設置という議論もあったが、既存のTFを終わらせてからとの意見多数。

＜結　果＞決議番号 52/2021 社会的責任のTFの最終報告

- 現時点では、ISO 26000のTCを設立しない。
- 懸念点やリスクについて、TMBは将来検討する。
- 今後、社会的責任のTC設立提案は、まずTMBに相談する。

【議題 4.1】SAG 環境，社会，ガバナンス(ESG)の設立

＜背　景＞

現在、世界にはESGに関する基準や認証方法が氾濫しており、ISOとして方向性を決め、市場等が困らないようにするべきとSCCが懸念を表明し、そのためにはSAG（Strategic Advisory Group: SAG）の設置が必要と提案。

＜審議内容＞

- SAGの設立にはおおむね賛同。EGGのharmonizationが必須。
- メンバーやほかのどの組織との協調が必要なのか。技術的な議論だけではなく、戦略的な議論であり、最後は外部への発信になる。
- 途上国の視点、エンドユーザー、TCSCからの参加、非TMB国からの参加も重要。

＜結　果＞　決議番号：59/2021

- ESG のSAGの設立を承認
- 期待される成果

  2022年9月TMBの承認：戦略と最終報告書及び推奨事項、次のステップを提案。
- リーダーシップ　SCC，BSI，ABNTの共同議長と共同事務局で構成予定

【議題 4.2】SAG スマートファーミング (SF)の設立

<背　景>

SDGsでもゴールになっている農業に関するスマートの議論が必要なのではないかとDIN（ドイツ）と後にANSI（米国）から提案があったもの。

<審議内容>

- SAGの設立にはおおむね賛同。
- タイトルを変更せず、農業のみならず水産業も含めた食料を対象とすべき。
- 農業からフォークまでとして持続可能な食品システムとしての対応が必要。廃棄食品の扱いも提案されたが、TC34が検討している新SCが入ればよい。
- 成果として、TCの改組などを考えているわけではない。

<結　果>　決議番号：60/2021

- Smart FarmingのSAGの設立を承認
- 成果　Smart Farmingを、ロードマップの形で調査結果を提供すること
- リーダーシップ　DIN，ANSIの共同議長

【議題 6.2.1】実験室設計の新TC設置

＜背　景＞

2019年にも中国から提案のあった実験室設計に関する新TCの提案に関する議論。重複の排除や関連するTCとの調整を前回のTMBから依頼。

＜審議内容＞

- 引き続き重複の存在やスコープが広すぎることに対しては懸念が表明された。
- 一方、前回のTMBから依頼した確認事項は終了していることから、設置するべきという考え方が多数。
- 関連するTCSCとのリエゾンの構築を行うことや、新しいスコープをTMBに確認させる必要があるのではないかとの意見も引き続きあり。

＜結　果＞決議番号 56/2021

実験室設計に関する新しい専門委員会の設置

- TC 336の設置を承認し、国際幹事国をSAC（中国）とし、
- リエゾンをISO/IECの関連TCSCと構築し、
- スコープをTMBに提出させる

【議題 6.2.1】TC 83スポーツのスコープ拡大

＜背　景＞

- TC 83（スポーツその他のレジャー施設及び用品）から、eSportsをスコープに含める提案がなされた。
- 一方、同じDIN（ドイツ）からは、eSportsのWSが開催され、SAC（中国）からはOnline Gameの用語規格開発のためのPC提案がされ、どのように調整するかが議論となった。
- 今回に関しては、内容以前にISO内での調整ができていないのではないかと各国利害関係者に指摘されるような状況であり、別途提案されている「新規分野の提案に関するプロセス」の議論が始まる契機となった。

＜審議内容＞

- TCの乱立は避けるべき。可能性があれば一つのTCの下に設置すべき。
- TC 83のスコープを拡大し、eSportsもOnline gameもTC 83で対応すべき。
- Onlineの提案者はTC83の下で開発することを了承している。

＜結　果＞決議番号 55/2021

- TC 83のスコープ拡大を承認し、eSportsのSC設立を推奨。
- Online game用語は承認された場合は、TC 83の下で開発する。

なお、
Online game
用語は否決

【議題 6.2.2】IWAライブストリーミング

＜背　景＞

- 提案者によれば、ライブストリーミングによる販売が急激に増加。ガイダンス文書が急務。NPより早いIWAでの開発を検討。
- TMB通信投票の結果、延期と反対があり、決議延期となった。
- 内容が不明瞭というコメントもあり延期したものの、保留期間中、追加の説明資料は得られていない

＜審議内容＞

- JTC1に対して、アクションをとっておらず、更なる情報提供もない。
- 本会合での決議は困難。
- 関係機関と調整した上で対応すべき。

＜結　果＞決議番号 57/2021

- 提案国（中国）にJTC1/SC27，29，40に連絡してスコープを調整し、2021年9月に修正したスコープの提出するまで、決議保留。
- IECやITU-Tの代表が本IWAに策定に加わることを推奨。

【議題 6.2.3】IWA展示会ブース

＜背　景＞

- コロナが収まった際には、展示会が多数開催されることが見込まれ、そのためには展示会ブースの用語が必要になるため、至急開発する必要がある。
- TMB通信投票の結果、延期と反対があったため、決議延期となった。

＜審議内容＞

- コロナ収束後、展示会ブースに関する規格は市場が必要とするが、TCがない現在、提案者としては規格開発期間を考慮して、NPよりIWAが望ましい。
- TC228（観光及び関連サービス）で議論する方が望ましい。
- 用語の規格化希望は望ましく、現行の規格改正により利用価値の高い規格とするのが望ましい。ISO25639－1：2008の見直しも含めて、検討してほしい。

＜結　果＞決議番号 58/2021

- 展示会ブースに関する用語IWA提案を否決し
- ISO/TC228において、ISO25639-1:2008と-2の改訂の検討も併せて要請し、
- TC228に2021年9月TMBで報告

【議題外】新規分野の活動＜参考＞

＜意見交換＞

- 最近の新規分野の提案（TSP/NP）は、明確な調整や見直し等なしに投票が行われる事例が散見される。

  例えば、以下のような事前調整のメカニズムが必要ではないか。

  ・ISO/CSによる事前確認（定期見直し間近の案件に関する提案など）

  ・既存の活動や新規提案同士のスコープの重複について、提案前に議論

  ・ISO/CSとIEC/COレベルでの調整
- TMBメンバーによる２～３週間の事前見直し、コメント・アドバイス
- 公式なプロセス化の検討（現在、TMB内部手続きには記載済み）
- TMBの推奨を受け入れない場合の対応（これを理由にMB投票中止にはしない）
- TMBメンバーによるコンサルテーションの実施時期（CS職員によるコンサルと同時並行とする）

＜結　論＞

- 上記の仕組みを文章化する小グループの設置。

（メンバー　BSI、SA、AFNOR、ABNT、ANSI、SN、SAC）

【議題 5.4.1】SPCG＜情報共有→決議＞

＜背　景＞

2019年夏に行った合同SMB/TMB会合において、IEC,ISO,ITU-Tの活動に関して調整するグループが設立。

SMB,TMB,TSAGから数名ずつ参加し、３組織で重複活動をなくすことでリソースを有効に活用し、遅延なく国際標準化活動を行うための活動を行う。

＜審議内容＞

- 当初２年毎に議長・事務局を交代することになっていたが、議論が過渡期のため議長の再任が議論され、全評議会レベルに上梓された
- なお、事務局は議長選出の組織(ISO)以外となるため、今回はITU-Tが務める。
- 現在は新TC設置提案をSPCGに回覧することで３組織間での調整を行っているが、それ以外をどのように調整するかが、今後の検討課題となる。

＜結　果＞　決議番号：61/2021

標準化計画調整グループ（SPCG）のメンバーシップ

- 議長：Ms Richardson(ISO)、事務局：Mr Eucher(ITU-T)（2023年6月まで）
- TMBからの参加者：ABNT、AFNOR、ANSI、JISC

【議題 3.1】戦略2030に基づくTMBの2022年活動計画

＜背　景＞

戦略2030年に基づいて、活動していく計画の内、TMBが2022年に行う案の承認をするもの。本提案は、９月の理事会で承認され、実行される予定。

＜審議内容＞

- WS等により、議論されてきており、ここで特別な議論はなく、必要に応じて修正をしながら活動することが承認された。

＜結　果＞　決議番号：53/2021

以下の分野に焦点を当てて活動する

- 戦略的概観プロジェクト
- 専門的業務の管理
- パートナーとの専門的な調整及び協働
- ISO/IEC専門業務用指針
- TMB固有のグループの管理及び監視

参考
討議事項
（決議なし）

【9.1.1】IEC/SMBとISO/TMB合同会合

＜背　景＞

2019年夏に行った合同会合を毎年開催する予定であったが、コロナにより対面が困難になり、スケジュールの関係でWEB会合もできなかった会議を今後どうするか。

＜審議内容＞

- 前回3月15日の合同会議で判明した問題点は開催時間と参加人数。最大開催時間2.5時間、45名以上の参加者を考えると、議題数は２件程度。
- 事務局案は、ハイブリッドのガイダンスとSMB/TMBが戦略パートナーについて議論したい。
- 2022年６月には、ジュネーブでの対面会合を期待する。

＜結　果＞

8月24日に合同会議を開催。議題に関しては引き続き検討。

【議題 5.3.1】SAG 重要鉱物＜情報共有＞

＜背　景＞

中国提案のTC333（リチウム）の際に、金属や鉱物ごとにTCが乱立する、金属に共通する議論が個別で実施される、一部の国のみに参加が偏るという懸念が表明された。
そのような背景をもとに、豪政府が検討を始め、米・加・欧・日などに声をかけ、豪（SA)を中心にStrategic Advisory Group(SAG)の設立提案が提出され、設立が決定したもの

＜情報共有内容＞

- まずはメンバーをどのようにするか検討した。TMB以外の国から思いのほか、参加希望があり、地域バランス等を検討し、現在のメンバーとした。しかしながら、参加できなかった国に指名された専門家の経験等も貴重であるため、今回はConsultativeグループに登録し、アドバイスをもらえるようにした。
- 会議の頻度は６～８週間に一度を予定。
- 7月15日に第一回会議を開催。結果は９月のTMBで共有予定。なお、Consultativeグループの活動については、第一回で議論する予定。（結果未達）

【議題8.1】少数「点」「カンマ」

＜背　景＞

- 2019年のJDMTに、JTC1から提案された少数を示すマークを「コンマ」から「点」に変更するという議論。（独を中心に欧州では「コンマ」、米を中心に非欧州では「点」の利用が多い模様。）
- 前回の報告会後、ご意見をいただき感謝します。日本は「点」への変更を希望。
- 今回、DINから印刷されるまで、「点」と「コンマ」に寄らない手段が提案され、それの議論を行った。

＜審議内容＞

- IECが変更を否定していることから、平仄をそろえるためにはISOも変更すべきではないが、この議論は引き続き行うべき。
- DINからの解決策は、原案にきちんと記載すれば、印刷やダウンロードする際に希望するマークの文書が提供されるというもの。
- 技術的には可能であるが、ISOとIECの政策的に了解を得てからのものとなる。

＜結　果＞

今後ITを活用した新しい手段で小数マークを示せるよう小グループを設置して、関係者とともに、継続して議論する。

【9.2.1】CENCLC及びEUとの高級事務レベル会合

＜背　景＞

- 2019年2月のTMB会議において、ウィーン協定（VA）の実施に関連する課題について協議。その後、2019年9月のTMB会議でCEN/BT議長から現状の報告。その後、CENCLC(CCMC)/EC、ISO/IECで議論をすることが決まったもののコロナにより遅延。

- 2020年9月のTMB会議において、更に医療分野でのECからの指令が市場に悪影響を及ぼしかねないとして、米国が懸念を表明。

＜情報共有＞

2021年５月18日対面で、ISO/IEC/CCMC/EC会議が開催。

- 懸念の克服への挑戦及び将来の問題対応のため、新グループの設置が決定。
- EUにとって、ISO・IECが価値のある解決策になることや、グローバルレレバンスの考え方も理解しており、時間や参加者の広さも認識。
- 一方、ECはEUのポリシーに沿って対応することが必要。欧州で国際規格が利用されることは、非欧州にとっても大きな価値であることへの理解が求められた。

上記を踏まえ、グループは一度きりの会議ではなく継続予定。事務局しか参加できないのであれば、事務局をバックアップする対応グループの設置がTMBとして必要。

【議題外】New Normal（新常態）について

＜背　景＞

- コロナ禍による、対面禁止が１年を過ぎ、この状態が普通になることにより、規格開発も見直しを図る必要があるのではないかという議論。
- コロナの経験から規格開発はWEBで可能であることが判明したため、今後、対面が可能になっても旅費等の支援をしない企業等がでてくる可能性増。
- そのため、New normalでの規格開発のガイダンスをTMBがTF下で作成中。

＜討　議＞継続審議（ABNT, AFNOR, ANSI, DIN, GOSTR, SA, BSI）

- 当初New normalのガイダンスを考えていたが、合同TFとして両者で議論し、まだコロナ禍であり将来が見えないため、まずはハイブリッド会合など会議開催に向けたガイダンスに注力すべきとなった。
- そのため、現在はJTF Hybrid meetingガイダンスとなっている。
- 現在、頻繁に会議が開催され、秋の両評議会で承認されるよう準備中。

ご参考　ジュネーブ空港にて

- TMB会議の裏、ジュネーブで開催されていた会議・・・参加者の飛行機・・・

ありがとうございました

経済産業省～「標準化・認証」の紹介ページ

https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun-kijun/index.html

日本産業標準調査会ホームページ

https://www.jisc.go.jp/